

No.	カテゴリー	発言の内容	意見への対応	
1	施設計画・デザイン、管理等のあり方に関する意見	海の恵み、山の恵み等、静岡の豊かな自然をコンセプトにして、施設づくりに取り組んでいくべきである。	「文化力の拠点」では、世界遺産富士山をはじめとする本県の世界水準の魅力や、静岡を象徴する食・茶・花の文化、自然の豊かさをコンセプトに、施設づくりに取り組んでいく。	
2		「文化力の拠点」では、キーワードを一つに集中し、キーワードに合わせて設計、デザインがなされるとよい。		
3		今後の財政状況を踏まえ、メンテナンスに手のかからない施設にすることを意識すべきである。		
4	賑わいの創出・観光に関する意見	庭園については、広く県民参加型の庭造りを考えるとよい。	「花の都」づくりでは、県民参加型で花と緑にあふれた美しい地域づくりを進めており、「文化力の拠点」においても県民参加型で進める工夫を検討していく。	
5		建築、ランドスケープ、造園の粋を集めた、建築と庭園が融合した世界水準の美しい空間ができると、庭園そのものが勉強の素材となり、そこに学びたい人々が集まり、観光にもつながる。	本日、石原委員から御提案いただく緑化の考え方やポイント、御意見等に配慮し、建物と緑化等が融合した空間づくりを検討していく。	
6		東静岡が県全体の観光のゲートウェイ的な機能を持ち、人々がここで映像を見た後、現地への具体的な移動手段や宿泊についても情報が発信できるような機能を検討すべき。魅力発信の先に、何を発信していくか議論が必要。	「文化力の拠点」は、世界遺産富士山をはじめとする本県の世界水準の魅力や、静岡を象徴する食・茶・花の文化、自然の豊かさの発信に加え、交流客等のニーズに合わせ、人々を現地に導くコンシェルジュ機能の導入を検討する。	
7		ここで何を学びたいのか、何をみたいのかを明確にすれば、外国人であれ誰であれ人々は集まってくる。観光と文化とは一つではないかと思う。		
8		導入を図る民間のホテルはどのようなものにすべきか、東静岡だけでなく静岡市全体の市場動向等を踏まえた議論が必要。 東静岡だけで考えると、全体のバランスを欠くことになる。	本日の会議では、民間の宿泊機能等に係る市場動向等を調査した結果を報告し、御議論いただく。	
9		大学コンソーシアム、留学生等の交流支援に関する意見	e-learnシステムの活用方策を若者に考えさせることが重要。 東静岡の放送局からインターネットテレビを通じ、色々な先生が交替でレクチャーしたり、セミナーの様子を見せ、学生に東静岡に行きたいと思わせるような、特長的な教育が出来る。	本日の会議では、e-learnシステムや留学生等の交流など、前回会議の議論を踏まえた大学コンソーシアムの拠点機能等について、荒木委員から御提案いただき、御審議をいただく。
10			外国人等を寝泊りさせるだけでなく、学びながら静岡のために働いてもらうような場づくりが重要。 これからの日本人のグローバル化のためには、小さい頃から外国人がいる環境で遊ぶことも重要。	
11			東静岡に留学生を集め、特別のワーキングプログラムを作り、日本の職人等の先生が教えたりすると、個性的な「文化力の拠点」ができあがる。	

No.	カテゴリー	発言の内容	意見への対応
12	「文化力の拠点」への導入機能に関する意見	静岡県の風土や気候から、食や文化を考えると、特徴のある場所が出来る。 提示された様々な導入機能が連続しているような空間づくりが必要。	導入機能の組合せによる新たな機能も踏まえ、導入機能が連続するような空間となるよう、施設や機能の配置に留意する。
13		自分たちの社会を築く人材を、国内外の人々とともに育てるような多文化・多世代のコミュニティの場を作ると面白い。 東静岡周辺住民の子育て環境、色々な世代が交流できる場が必要。	大学コンソーシアムの拠点や図書室、広場等を活用し、学生をはじめとした若者や留学生、地域住民など、様々な多世代が交流できる場の創出に努めていく。
14		古代東海道は重要な資産であり、どう取り込んで見せていくかが重要。古代東海道と併せ、街道文化としての展示、バーチャル的な時代を超えた見せ方ができると楽しい。	古代東海道の歴史的価値や本県文化財の魅力等を発信する機能と、充実したソフトの導入に努めていく。
15		人の賑わいにつながる特徴的な尖った機能が必要。 東静岡に森をつくるなど、ここにしかないという特徴的な機能、緑、花の都を強く打ち出す等、県内外、海外からも集客が出来る機能が必要。	本県が誇る富士山をはじめとする数々の世界水準の魅力の発信や、日本一の食・茶・花の恵みが満喫できる機能、花や緑などが溢れる美しい空間など、県内外の人々が訪れてみたいと感じるような、静岡ならではの機能の導入に努めていく。
16		人を集めることが大事なので、県民が望み、県外の人々が静岡に行って、あれを見たいと感じるような、尖った機能という観点からの検討が必要。	
17		文化・学術ゾーンとして現在欠けているものを分析し、周辺の県立美術館等との関わりを検討すべき。	当地域周辺に集積するグランシップや、県立美術館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、日本平山頂、久能山東照宮などの様々な学術・文化施設等との連携を強化し、本県の高い文化力を発信していく。
18		それぞれの機能のユーザーや施設のメインユーザーについても想定した上で、機能等を議論する必要がある。	
19		導入機能は充足しているので、これをどう繋ぎ合わせ特長付けるかを検討する必要がある。	本日の会議では、メインユーザーや機能の組み合わせ等を整理した資料を報告し、御議論いただく。
20		各機能をネットワークにすると色々な組み合わせができ、面白いものができる。	